

## 第13課

❖❖ 喫茶店でお茶する ❖❖

### スキット

のぞみとサイダが喫茶店でお茶していますー

Nozomi (N) : Mandari **ilitufurahisha**.

Saida (S) : Ee, na monoreli tuliipanda.

N : Twende tena.

Twende wapi safari nyingine ?

S : Mmmm, nataka kwenda Mlima Fuji !

N : Shauri zuri.

Basi twende tukapande Mlima Fuji.

S : Nangojea kwa hamu sana.

Na tutazidi kuwasiliana.

N : Haya.

のぞみ (N) : ピクニック楽しかったね。

Pikunikku tanoshikatta ne.

サイダ (S) : うん、モノレールにも乗ったしね。

Un, monoreeru ni mo notta shi ne.

N : またみんなで出かけよう。

Mata minna de dekeyou.

次はどこに行く？

Tsugi wa dokoni iku ?

S : うーん、富士山に行きたい！

Uun, Fujisan ni ikitai !

N : いいね。

Ii ne.

じゃあ、次は富士山に登りに行こう。

Jaa, tsugi wa Fujisan ni nobori ni ikou.

S : 楽しみにしてるね。

Tanoshimi ni shiteru ne.

また連絡するから、してよ。

Mata renraku suru kara, shite yo.

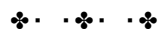
N : うん、わかった。

Un, wakatta.

## 解 説

第 13 課では、次の項目について学びます。

- ◆ 動詞本体のヒキノバシ(2)
  - ◇ ナセル・ナセレル体
  - ◇ ナサス・ナサセル体
  - ◇ ウラガエシ体



### ◆ 動詞本体のヒキノバシ(2)

動詞本体のヒキノバシについて、第 11 課での解説の続きを見ていきましょう。

まずは少し復習です。動詞本体には、必ず尻尾が付いているのでしたね。そして、その動詞本体の尻尾の前には、動詞本体の元の意味を少し変えるためのシルシが入ることがあります。

▽ 動詞本体



このシルシには幾つか種類があり、第 11 課ではこれら 3 種類のシルシについて見ました。

: i-	: e-	(ニ・デナス体)
: an-		(ナシアウ体)
: w-		(ナサレル体)

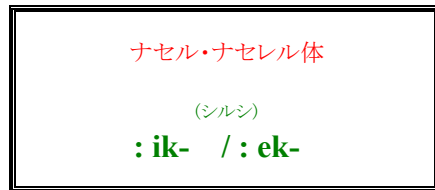
第 13 課ではこれら 3 種類のシルシについて見ていきます。

: ik-	: ek-	(ナセル・ナセレル体)
: ish-	: esh-	(ナサス・ナサセル体)
: iz-	: ez-	
: u-	: o-	(ウラガエシ体)



### ◇ ナセル・ナセル体

まずは‘:ik-’と‘:ek-’のシルシからです。これらは例えば〈刺す〉を〈刺せる〉や〈刺される〉に変える、いわばナセル・ナセル体のシルシです。



これまでに見た課のスキットにも出ていました。これがそうです。

N : Mfupa wa pua <b>haukuvunjika</b> . 〈鼻の骨は折れていませんね。〉
---

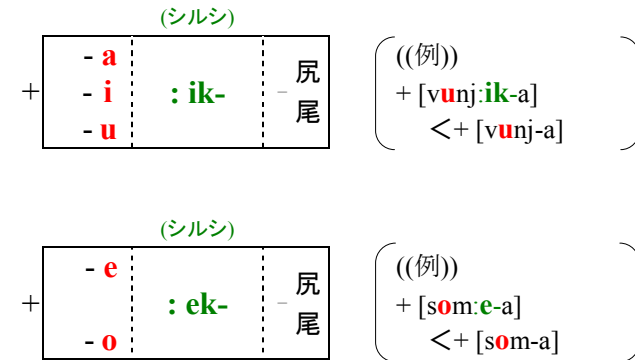
(第11課)

この‘haukuvunjika’の動詞本体はこのようになっています。

+ [vunj:**ik**-a]    〈折れる〉    (+ [vunj-a] 〈折る〉)

シルシが‘:ik-’になるか, ‘:ek-’になるかは, 第11課で見たニ・デナス体の規則と同様で, 元の動詞本体の尻尾の前の母音で決まります。シルシが‘:ik-’になるのは尻尾の前の母音が‘-a’, ‘-i’, ‘-u-’の場合です。そして, シルシが‘:ek-’になるのは尻尾の前の母音が‘-e’, ‘-o-’の場合です。

### ▽ ナセル・ナセル体のシルシ



尻尾が‘-a’以外の動詞本体では, ヒキノバシした後の尻尾を‘-a’にしなければなりません。例えば‘+ furahi’〈喜ぶ〉は, 動詞本体の尻尾が‘-i’ですね。しかし, ナセル・ナセル体では尻尾を‘-a’にし, ‘+ furahika’とします。

+ [furah:**ik**-a]    〈喜べる〉



### ◇ ナサス・ナサセル体

さあ, 続いては‘:ish-’と‘:esh-’, ‘:iz-’と‘:ez-’のシルシです。これらは例えば〈刺す〉を〈刺さす〉や〈刺させる〉に変える, いわばナサス・ナサセル体のシルシです。

ナサス・ナサセル体

(シルシ)

: **ish-** / : **esh-**

: **iz-** / : **ez-**

これまでに見た課やこの課のスキットにも出ていました。これらがそうです。

S :   Duka hili <b>limenipendeza</b> .	〈この店、気に入った。〉
--	--------------

(第9課)

N :   Mandari <b>ilitufurahisha</b> .	〈ピクニック楽しかったね。〉
---------------------------------------	----------------

この‘limenipendeza’, ‘ilitufurahisha’の動詞本体はそれぞれこのようになっています。

+ [pend: <b>ez</b> -a]	〈 <u>好きにならせる</u> 〉	(+ [pend-a] 〈好む〉)
+ [furah: <b>ish</b> -a]	〈 <u>喜ばす</u> 〉	(+ [furah-i] 〈喜ぶ〉)

シルシの後ろの部分が‘sh’になるか‘z’になるかは、動詞本体により決まっています。そして、シルシの前の部分が‘i’になるか‘e’になるかはニ・デナス体やナセル・ナセレル体の規則と同様で、やはり元の動詞本体の尻尾の前の母音で決まります。シルシが‘:ish-’, ‘:iz-’になるのは尻尾の前の母音が‘-a-’, ‘-i-’, ‘-u-’の場合です。そして、シルシが‘:esh-’, ‘:ez-’になるのは尻尾の前の母音が‘-e-’, ‘-o-’の場合です。

▽ ナサス・ナサセル体のシルシ

(シルシ)														
+	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding: 2px 5px;">- a</td> <td style="padding: 2px 5px;">: <b>ish-</b></td> <td style="border-right: 1px dashed black; padding: 2px 5px;"></td> <td style="padding: 2px 5px;">尻尾</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding: 2px 5px;">- i</td> <td style="padding: 2px 5px;">: <b>ish-</b></td> <td style="border-right: 1px dashed black; padding: 2px 5px;"></td> <td style="padding: 2px 5px;">尾</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding: 2px 5px;">- u</td> <td style="padding: 2px 5px;">: <b>iz-</b></td> <td style="border-right: 1px dashed black; padding: 2px 5px;"></td> <td style="padding: 2px 5px;">尾</td> </tr> </table>	- a	: <b>ish-</b>		尻尾	- i	: <b>ish-</b>		尾	- u	: <b>iz-</b>		尾	((例)) + [and <b>i</b> k: <b>ish</b> -a] <+ [and <b>i</b> k-a]
- a	: <b>ish-</b>		尻尾											
- i	: <b>ish-</b>		尾											
- u	: <b>iz-</b>		尾											
+														
(シルシ)														
+	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding: 2px 5px;">- e</td> <td style="padding: 2px 5px;">: <b>esh-</b></td> <td style="border-right: 1px dashed black; padding: 2px 5px;"></td> <td style="padding: 2px 5px;">尻尾</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding: 2px 5px;">- o</td> <td style="padding: 2px 5px;">: <b>ez-</b></td> <td style="border-right: 1px dashed black; padding: 2px 5px;"></td> <td style="padding: 2px 5px;">尾</td> </tr> </table>	- e	: <b>esh-</b>		尻尾	- o	: <b>ez-</b>		尾	((例)) + [pend: <b>ez</b> -a] <+ [pend-a]				
- e	: <b>esh-</b>		尻尾											
- o	: <b>ez-</b>		尾											

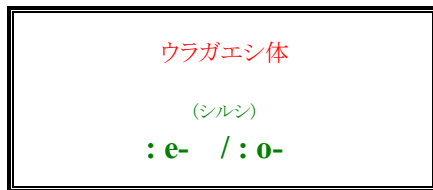
尻尾が‘-a’以外の動詞本体では、ヒキノバシした後の尻尾を‘-a’にしなればなりません。例えば‘+ rudi’ 〈戻る〉は、動詞本体の尻尾が‘-i’ですね。しかし、ナサス・ナサセル体では尻尾を‘-a’にし、‘+ rudisha’ とします。

+ [rud: <b>ish</b> -a]	〈 <u>戻らせる</u> , 返す〉	(+ [rud-i] 〈戻る〉)
------------------------	---------------------	------------------

先ほど見た‘+ furahisha’の例もそうでしたね。

◇ ウラガエシ体

さあ、最後は‘:u-’と‘:o-’のシルシです。これらは例えば〈刺す〉を、裏返しの意味の〈抜く〉に変える、いわばウラガエシ体のシルシです。



このシルシはこれまでの課のスキットに出てきませんでしたが、ここで例を見ておきましょう。

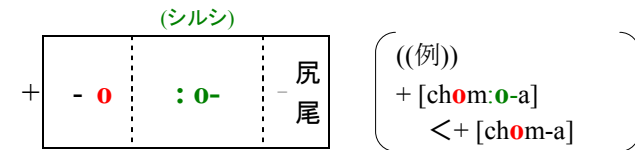
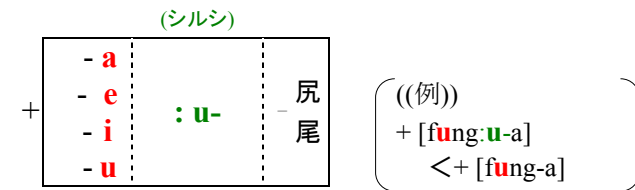
- ((例 1)) Amefunga mlango. <彼はドアを閉めた。>  
**Amefungua** mlango. <彼はドアを開けた。>
- ((例 2)) Amekunja uso. <彼は顔をしかめた。>  
**Amekunjua** uso. <彼は顔をほころばせた。>

‘Amefungua’, ‘Amekunjua’ の動詞本体はこのようなになっています。

- |                       |       |                    |
|-----------------------|-------|--------------------|
| + [fung: <b>u</b> -a] | <開ける> | (+ [fung-a] <閉める>) |
| + [kunj: <b>u</b> -a] | <ひらく> | (+ [kunj-a] <たたむ>) |

シルシが‘:e-’になるか, ‘:o-’になるかは, やはり元の動詞本体の尻尾の前の母音で決まります。ただし, これまでに見たシルシの規則とは異なる規則を用います。シルシが‘:e-’になるのは尻尾の前の母音が‘-a’, ‘-e’, ‘-i’, ‘-u-’の場合です。そして, シルシが‘:o-’になるのは尻尾の前の母音が‘-o-’の場合です。

▽ ウラガエシ体のシルシ



さあ、以上で6種類の動詞本体のヒキノバシのシルシを見てきました。これらのシルシを覚えてしまえば、動詞本体の語彙が一気に豊かになりますよ。

▽ 動詞本体のヒキノバシのシルシ

: i-	: e-	(ニ・デナス体)
: ik-	: ek-	(ナセル・ナセル体)
: ish-	: esh-	(ナサス・ナサセル体)
: iz-	: ez-	
: an-		(ナシアウ体)
: w-		(ナサレル体)
: u-	: o-	(ウラガエシ体)

